品質・収量の安定へ

ドローンで麦の赤カビ病防除薬を散布

2018 年 4 月 25 日(水)～5 月 15 日(火)

ドローンで薬剤を均等散布。作業の省力化を喜ぶ声も。

仰木や真野、新免・関津等の生産組合法人や大規模農家からの依頼を受け、ドローン（産業用マルチローター）を使って麦の病害予防薬を約 62 ヘクタールに散布しました。

病害の発生は、麦の収量・品質を低下させる原因となります。また、品質によって交付金の単価が大きく変わるため、ドローンによる薬剤の均等散布で病害防除を徹底することによって、品質と収量の安定につなげたいと考えています。

ドローンでの薬剤散布は 3 月から野菜の病害防除で開始していますが、麦の防除も滋賀県下初の試み。JA が自己改革の一つとして掲げる「農家組合員の所得増大・農業生産の拡大」を実現するべく導入しました。

ドローンは、飛行速度によって散布量を自動的に調節し液体を均等に散布できるなど、産業用無人ヘリに代わる農薬散布手法として期待されています。

仰木地区は特に棚田の多い中山間地域であるため今までは乗用管理機での防除作業でしたが、急斜地での作業は危険も多く、作業従事者の高齢化も課題となっていました。同地区ではドローンの導入に期待が大きく、すでに依頼が多く寄せられています。大規模農家からも、「田植え時期でもあり、麦の病害防除までなかなか手が回らない。JA が作業を請け負ってくれることになり、安心して任せられる」と、作業の省力化を喜ぶ声をいただいています。

ドローンのオペレーターである当 JA 南営農経済センターの田中センター長は、「JA が作業委託を受けることによって、少しでも生産者の苦労を解消することができれば。より生産力・所得の向上につながるようにしていきたい」としています。

ドローンによる受託防除については、集団転作作物を中心に、整備田での作業を実施しています。